

仏生命倫理委員会 委員長との意見交換の会合

1. 会合趣旨

仏生命倫理委員会 Delfraissy 委員長の来日に際して、在日仏大使館からの日本の生命倫理委専門調査会委員との意見交換の依頼に基づき、開催

2. 日程

2019年9月25日 14:00-17:15

3. 会場

在日仏大使館 カンファレンスルーム

4. 参加者

18人 (生命倫理専門調査会 5人、厚生労働省研究班 3人(重複1名)、事務局 3人、
仏生命倫理委員会(CCNE) 2人、在日仏大使館 5人、ゲスト 1人)

< 日本 >

五十嵐 隆 会長代理(生命倫理専門調査会)

阿久津 英憲 委員(生命倫理専門調査会)

甲斐 克則 委員(生命倫理専門調査会)

小出 泰士 委員(生命倫理専門調査会)

加藤 和人 委員(生命倫理専門調査会、厚生労働省厚生労働科学研究班)

磯部 哲 (厚生労働省厚生労働科学研究班、厚生科学審議会科学技術部会、
ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針に関する専門委員会)

小門 穂 (厚生労働省厚生労働科学研究班)

事務局：長谷部 参事官、重松 参事官補佐、小泉 政策調査員

< フランス >

ジャン・フランソワ・デルフレッシュ 仏生命倫理委員会 委員長

クロード・キシユネール 仏生命倫理委員会 委員

ローラン・ピック 駐日フランス大使

原山 優子 ゲスト

事務局(科学技術部)： オフレ科学技術参事官、ドゥ ベンツマン科学技術担当官、
ルセリエ プロジェクトマネージャー、斎藤 担当官補佐

5. 概要

仏大使館の歓迎と協力のお礼の挨拶に始まり、CCNE 委員長から独立機関である CCNE が仏国民の意見を反映した法の改正に対する提言 8 項目と将来展望 1 項目を政府へ具申し、生命倫理法が現在仏国会において審議中であることの情報共有を受けた。

これに引き続き、仏の法案改正の手順、大掛かりな国民意見の収集に踏み切った背景に始まり、生殖補助医療を同性のカップルへ拡大する意見のインパクト、ゲノム編集の適用範囲など多岐に渡り、熱心な意見交換を短い休憩を挟み、3 時間を超えて行った。

日本側の現状として、生命倫理専門調査会の位置づけと、第一次、第二次「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」見直し等に係る報告についての説明と現状の課題について説明し、相互の現状に類似点が多いことの認識を共有した。

CCNE 委員長から、改めて日仏の情報交換と、生命倫理の議論を深めることの協力を求める発言を受けた。今後、生命倫理法の審議の進展に関する情報の供与から始まり、日本国内等での関連催しについての情報提供が約された。